過疎地域における薬局の役割

一般社団法人唐津東松浦薬剤師会

高木 一範

【目的】

2009年、国が地域医療再生計画を策定し、経済対策と地域医療の再生という二つの目的を発表した。その計画の一つとして佐賀県では唐津赤十字病院の新築移転が候補としてあげられ、県で採択された。それに伴い唐津東松浦薬剤師会も、感染症対策や休日夜間小児救急対応薬局設立が求められ、平成28年に会営薬局を開局することが出来た。

唐津市としてもう一つ重要な課題として、過疎地域における医療体制の構築が求められていた。その一つのエリアである七山では、医師及び歯科医師が在宅診療等で対応していたが、

薬剤師の在宅訪問の必要性も強く求められていた。唐津市からの要請を受けて、2020年６月に一般社団法人唐津東松浦薬剤師会薬局七山店を開局する事ができ、医科・歯科・社会福祉協議会との連携した医療体制がスタートした。

【事例の概要】

開局から5ヵ月が経過し、一般外来、特別養護老人ホームの調剤に加え、７件の在宅業務（居宅療養管理指導：6件、在宅患者訪問薬剤管理指導：１件）を実施している。OTC販売も地域のニーズに耳を傾けながら、少しずつアイテムを増やしてきた。コロナ対策、調剤過誤対策、セキュリティー対策、クラウド型薬歴を活用した薬歴管理指導、クラウド型在庫管理システム等を活用した薬局運営の現況を報告したいと思います。

【結果及び考察】

過疎地域における多職種間の医療体制の構築は、比較的円滑にスタートすることが出来た。お互いが多忙で、加えてコロナウィルスの影響もあり、情報共有の時間が十分取れない事が今後の課題で、もっともっと風通しの良い関係を構築していきたいと考えている。薬局内は少ない人的資源での薬局運営は機器類の活用が不可欠であり、5か月経過してやっとスタッフが活用できる様になり、多忙な毎日の業務もルーチン部分は短時間で処理できるようになった。七山は交通手段や経済的な問題で、唐津市内の眼科や皮膚科などの専門病院まで簡単に足を運べない方々も多く、今後、薬局が血圧管理、栄養指導、糖尿病管理など、セルフメディケーションの拠点として機能できるようスキルアップしていきたいと考えている。